

令和5年度第2回小櫃・上総地区公民館運営審議会会議録

- 1 会議名称 令和5年度第2回小櫃・上総地区公民館運営審議会
- 2 開催日時 令和5年9月12日(火)
15時から17時05分
- 3 開催場所 君津市小櫃公民館 研修室
- 4 出席委員 【小櫃地区選出】三橋委員長、丸山委員、栗原委員、荒井委員
事務局 【上総地区選出】小泉副委員長、石井委員、鳥井委員、小島委員
【小櫃公民館】石井館長、藤平副館長、會澤副主査、島津主事
【上総公民館】本橋館長、潤米松丘分館長、鈴木亀山分館長、
森本副館長、早田主査、今井公民館主事、江越主事
- 5 欠席者 なし
- 6 傍聴人 なし
- 7 会議概要 下記のとおり

- 1 開会（進行 藤平副館長）
- 2 委員長あいさつ（三橋委員長）
- 3 小櫃公民館長あいさつ（石井館長）
- 4 議事

【三橋委員長】

次第に沿って進めてまいりますので、よろしくお願ひします。さて、本日は報告事項が3項、協議事項が2項あります。

まずは、報告事項その1「各館『経営方針』について」、事務局から説明をお願いします。

なお、報告事項についてのご意見やご質問ですが、3項目の報告事項全ての説明が終了してからまとめてお受けいたしますので、ご了承ください。

【藤平副館長】

*資料「2023（令和5）年度 小櫃公民館 経営指針」及び「2023（令和5）年度 上総公民館 経営指針」のとおり説明。

【三橋委員長】

それでは、次の報告事項その2「各公民館事業の中間報告」をお願いします。これについては小櫃公民館、上総公民館の順に報告してください。まずは、小櫃公民館からお願いします。

【藤平副館長】

*資料P1～2のとおり説明。

【森本副館長】

*資料P3～4のとおり説明。

【三橋委員長】

それでは、次の報告事項その3「文化祭について」です。これについても小櫃公民館、上総公民館の順で報告をお願いします。それでは小櫃公民館から報告をお願いします。

【藤平副館長】

*資料P5のとおり説明。

【森本副館長】

*資料P6のとおり説明。

【三橋委員長】

ありがとうございました。報告事項の説明は、以上となります。これまでの3項目の報告事項について、委員のみなさまからご意見やご質問をいただきたいと思います。ご質問のある方は挙手をして名前を名乗ってからお願いします。いかがでしょうか。

【石井委員】

子どもキャンプということで、いろいろな話がありました。確かにこの暑さのなかどうなのかというのはありますけれども、私も子どもの頃のキャンプの記憶が非常に印象に残っていますので、暑いのは大変ですけれども、これからも続けてもらいたいと要望いたします。

【三橋委員長】

石井委員と同感です。石井館長からの挨拶にもありましたが、運営する側としては安全を第一にしないといけないと思いますが、石井委員の言われたように、子ども達がそこでどのような体験をするのかがキャンプのなかで重要なことだと思います。酷暑、酷暑と言われていますが、小櫃が実施した海水浴、山での活動のように、暑いなかでも山に行くと木陰に入ったらこんなに涼しいんだとか、昼間は暑かったけれども夜になったら涼しいんだとか、虫に刺されることもあるでしょうけれども、子どもたちがそういうことを体験することは大切だと思います。企画する側はやはりそういうことも意識しながら、参加者の保護者にもご理解いただいて、安全第一ですけれども、子どもたちに経験させてもらいたいと思います。公民館の方から補足等いかがでしょうか。

【藤平副館長】

君津市公民館連絡会の館長部会で、熱中症警戒アラートが出たときにどうするのかという話題が出されたことを受け、9月29日の副館長会議のなかで、こういった問題提起があったことを踏まえて、熱中症アラートが出た場合の運営側としての心づもりについて話し合うことになっています。そこで各館の考えを聞きつつ、運営側としては安全安心でいられることが一番なので、君津市の公民館としての安全対策を話し合う予定です。また決まったことについて、みなさまにも提示させていただきたいと思います。

【森本副館長】

いま、藤平副館長からもありましたが、熱中症警戒アラートが出たときの代替プランや、実施の時期も含めて、今のところ子どもキャンプをなくすということではなく、もし熱中症警戒アラートが出た際の対応、建物の近くでやるべきなのかなど、次年度に向けてやり方について検討していきたいと思います。

【荒井委員】

すごくよいことだと思ったのですが、資料P4の松丘分館事業に「チェーンソー・刈払機のメンテナンス講習」があるのですが、この間、新聞で草刈り機の死亡事故が掲載されていました。機械を使っているときは、車や人など周りの音が聞こえないですね。参加者を見ると9名と少なく、他の事業だと2桁の人数ですが、どういう人が参加したのでしょうか。こうした事業は分館事業だけでなく、小櫃でも上総でもやると思います。使い方を教えたり整備するところはJAもあるシクボタもあるし、いろいろあ

るので、事故をなくすために松丘だけでなく進めてもらえるといいと思います。

【三橋委員長】

いま、上総地区の方もそうだと思いますが、小櫃地区も自分の土地は自分で管理するという考え方で、個人の責任でもって環境整備をするのが基本になりますが、小櫃では、国からの交付金を使った多面的機能の促進事業として、共同で農地の草刈り作業をする地区が増えてきました。そういうなかで安全対策について教えていくことが大事だと思います。実際のところ集まったときに注意喚起程度しかできていないので、公民館が絡んで講演会を開くことで、そこが集まりの場になって、メンテナンス講習会を通じて、地域のいろいろな情報が集まるきっかけになるとと思います。

【荒井委員】

こどもキャンプで安全面の話が出たので、これも大人の安全として発言しました。

【三橋委員長】

地域の特徴としてひとつの取り組みとしてよいと思います。このことで松丘分館についていかがでしょうか。

【江越主事】

参加人数について、このチェーンソー講習会は始めて5～6年目になってきています。最初は定員20名まで満たしていました。昨年も定員まで集まりましたが、今年になって1桁台になったのは、松丘の人に浸透してきたということだと思いますので、松丘の人のニーズに合うものを実施していきたいと考えています。

【三橋委員長】

他に質問などありますでしょうか。

【小泉副委員長】

私は台風被害があったりしているので、小櫃公民館の資料P2にある小櫃地区の防災講座は重要だと思います。参加者が49名集まって避難所運営ゲームをやっていますね。私も上総公民館で避難所運営ゲームを数年前にやりましたが、そのときは募集をかけたものの人数が集まらず、関係者だけで行いました。よい体験はしましたが、地域の方と一緒にやらないと、リーダーだけが知っていても、一般の方は理解できず、いろんな意見が出てしまうので、人が集まらなくても何度か繰り返し講座を開いてお知らせをして実施してもらいたいと思います。

【三橋委員長】

小櫃の防災講座は、今年は、各自治会に呼びかけのほかに民生委員にも声をかけていますね。

【會澤副主査】

小櫃地区防災講座は今年5年目になりますが、自治会連絡協議会と共催で実施しています。募集については基本的に自治会から行ってもらっていますが、今年は少し趣向を

変えて、自治会役員だけでなく、民生委員や地区社会福祉協議会、日赤奉仕団、消防団に声をかけさせてもらいました。これには理由があって、今回は避難所運営ゲームの体験も盛り込みましたが、「君津市避難行動要支援者避難支援計画」の作成が昨年度から始まっているということが実は布石になっています。各自治会単位で、支援が必要な人の名簿をつくるにあたって、小櫃地区では、自治会長がとりまとめる前に民生委員が計画をつくることになっています。ただ、民生委員もエリアをまたがっていたり、自治会長も1年単位で代わってしまうという現状です。そこにコロナの影響もあって、人が変わってしまって顔合わせができないということがずっと続いていました。そこで、計画作成の制度の説明と避難所運営ゲームを通して、地区単位でのグループ内で顔合わせの機会を創出するため、防災に関係する団体に声をかけさせてもらった次第です。

自治会に通常の人を集めてしまうと会場に入りきらなくなってしまうので、去年は3名までのところ今年は2名までとして、代わりに他の団体の方に入ってもらい、その結果参加者は49名となりました。ある程度動員をかけないと、集めるのは難しいと思います。組織として入ってもらい関係者に集まってもらったので、今回一般募集は行っていません。

【三橋委員長】

この間の台風のときに、市の広報など流れましたが、防災講座の反響はありましたか。

【會澤副主査】

とくに避難者は来ませんでした。施設老朽化の影響もあるかもしれません。個人や地域単位で防災意識の高まりはあったかもしれませんが、効果までは把握できていません。

【三橋委員長】

小櫃の場合、毎年、自治会長が代わってしまうので、毎年やらないといけませんね。

【會澤副主査】

関連していいますと、今回、危機管理課にも小櫃地区防災講座に参加してもらいましたが、講師とのつながりをつくることができました。10月22日に上総小櫃中学校を会場に、君津市の総合防災訓練を実施するのですが、防災講座と同じ講師でワークショップをすることになっていて、継続的な防災学習になるかと思います。

【三橋委員長】

小島委員、いかがでしょうか。

【小島委員】

資料P1の子ども会についてですが、小櫃には各地区子ども会があるのでしょうか。

【藤平副館長】

子どものいない小櫃台には子ども会はないので、関係者会議からは抜けています。

【小島委員】

子ども会の担当者の悩みがあるといいましたが、自治会長さんのことですか。

【藤平副館長】

自治会のなかで子ども会の担当者が決まっています。担当者になったはいいけれども子どもの数が少なくなり、コロナのブランクもあるなか、自治会からは予算もついているが、何をしたらいいか困っているという子ども会担当者の方が複数名いらっしゃいました。そこで、小櫃公民館の出張型のミニシアターを提案したところ、昨年の実績以上に上映の依頼がありました。

【小島委員】

ホタルを見るイベントに273名参加というのは子ども会とは違うものですか。

【會澤副主査】

ホタル谷フェスタは長谷川自治会主催のもので、子ども会の関係で言いますと、当日の竹灯籠の展示のひとつとして、竹をくりぬいて絵を描く絵灯籠をつくる取り組みを行って参加しています。長谷川の大きなイベントに子ども会として乗っかっているという現状になっています。

【小島委員】

松丘の場合は松丘全体でホタルを見る会があります。自治会長による青少年を育てる会として行っています。全体のイベントではなく、長谷川地区のイベントにみんなが集まるということで、予算があるのかなと感じました。

【三橋委員長】

小櫃の場合、基本的に地区ごとに子ども会があります。子どもが少ないなかで、子ども会として何をしようか役員さんが悩んでいる例があると報告がありました。地区の自治会では子ども会を支援するための予算を組んでいて、これが子ども会が存続する要因にもなっています。そういうなかで、小櫃の場合には、公民館が子ども会等関係者会議をやってくれているので、さらに子ども会へのカンフル剤となっています。これがなくなってしまうと、各地区の子ども会は立ち行かなくなってしまうと思います。公民館がいろんなアプローチをしてくれていることで、役員の方が何かやってみようというようになってきたと思います。

自治会単位で青年会や子ども会がいろいろな行事を実施していますが、会場には「うちの地区にこんな数の子ども、いないよな」と思われるほど子どもたちが集まっています。よその地域に移り住んだ世代が、行事のときに孫を連れて戻ってきて、祖父母と一緒に盛り上がる。そして地元の地域とつながる。このような事例も見受けられます。そういう出来事が継続していくための支援を、公民館活動を通じて続けてもらえると思います。

それでは鳥井委員いかがでしょうか。

【鳥井委員】

まず、今回事業の様子を写真で説明してくれたので、参加者の表情がよく見てとれ、分かりやすかったです。

また、長谷川ホタル谷フェスタですが、中身として、異世代交流は大事だと思います。災害が来たときに、いろんな年代の方々が協力し合って凌いできたというシーンがあり

ました。それには日頃からコミュニケーションができていないと難しいです。今の子どもたちはデジタルのなかで会話をしたり、やりとりをしています。例えば「おはよう」という文言ひとつをとっても、怒って言っているのか、嬉しくて言っているのか文章だけではわかりにくい世代を生活している子どもたちにとっては、そういったコミュニケーションをとることで、言葉のニュアンスがコミュニケーションを通じて分かるようになると思います。子どもだけでなく、文化の継承という意味でも、こういうコミュニケーションがとれる場ができるといいと思います。

【三橋委員長】

ホテルの話をしていただきましたが、「小櫃まるごと博物館」で流しているホテルの映像には当日以外の映像もありますよね。地元の人達がいろんな準備をしながらコミュニケーションをとっていますね。

【會澤副主査】

当日を迎えるにあたって、地域のいろんな方が関わっている様子を編集はしてしまっていますが収録しています。表面的なイベントだけでなく、地域の営みとして、地域の役員として出て行く大変さもありますが、実行委員会でしっかりと対話を重ねながら高めていく取り組みは長谷川の力だと思います。

【三橋委員長】

栗原委員、いかがでしょうか。

【栗原委員】

まだ分からないところも多いのですが、学校の規模からいっても、学校の教員だけでなく、地域の方の力を借りながら子どもたちを育ててほしいと思います。コミュニティスクールも始まりつつあります。地域の方も学校に入っていて、子どもを育ててほしいのですが、地域へも子どもが力を注いで力を尽くすことを学校からも子どもたちに伝えていきたいと思います。防災関係も上総小櫃中学校が避難所になった場合、子どもたちが公助といいますか、助けになれるように、先日の学校の防災訓練でも話をしました。地域のなかにコミュニティがないと、災害になったときお互い助け合うこともできないので、そういう部分を作っていくことも大事だと思います。

君津市には救急車が5台、消防車は9台しかないなので、災害時にはお互いに助け合えないといけないと子どもたちに話をしました。そういう点からも、日頃からのコミュニティをつくることは大切だと思います。

【丸山委員】

小櫃地区防災講座に、日赤奉仕団小櫃分団に所属しているので動員がかかって参加しました。コロナの対策も含めて時間を短くしていて午前中のみの実施でした。厚生課の説明とワークショップを行いました。時間が足りなくなりました。とくに避難所運営ゲームの説明が長くて、NPOの方が一生懸命話してくれましたが、いざやってみようとなったときに時間がなくなってしまい、最後は尻切れトンぼになってしまいました。こういうことに触れていくことは、このときは成果がなくても、公民館の方で徹底していくことで、楽しく異世代の人と取り組めると感じました。

子どもキャンプについて、子どもの頃は「ちびっこキャンプ」と言っていたかと思いますが、私も子どもたちも参加しました。海水浴について、事故のことも考えると青少年相談員の負担もあるのかなと心配になりました。それでも、安全にやっていたければ楽しい事業だと思います。

子ども会関係について、子どもが減っているということは親も減っていて、役員も1回で終わらずに何度も回ってくることになります。以前は君津市のバスを借りて、どこかに行くときには地区からの助成金を使ったり、お祭りの行事、御神輿を引く行事でも飲み物を買ったりしていました。子どもが少ないと、どこかに行くといってもまとまらない。親の考えも変わってきて、子ども会に入るのは私たちの頃は当たり前でしたが、今は子ども会に入らない選択もあると聞きます。昔は映画に行った帰りにファミレスで食事したり、楽しかった記憶があります。子ども会の役員は学校のPTAの下部のようになって、昔は資源回収の収入や賛助会費などがあり、それらが残ると地区のイベントで何をしようか悩むこともありました。ミニシアターの活動など、こういうことができますよという公民館側からの提案があると、今のお母さんにとってはよいと思いました。

【三橋委員長】

丸山委員が報告の全てを総括してくれましたので、報告事項については以上とします。それでは次の、協議事項に移ります。まず、協議事項その1「審議テーマにおける公民館の現状報告について」です。今期の審議テーマは『地域活性の拠点としての公民館運営・事業』としております。まずは、小櫃公民館から報告をお願いします。

【會澤副主査】

*資料P 7～8のとおり説明。

【森本副館長】

*資料P 9～13のとおり説明。

【三橋委員長】

ただいま、両館から説明がありました。委員のみなさまから、ご意見やご質問はございませんか。

【丸山委員】

小櫃地区アンケート結果ということで、小櫃地区1,000人の住民に無作為での回答率33%というのは公民館的には期待通りですか。

【會澤副主査】

今回のアンケートは、公民館の再整備計画のワークショップを行うに当たり、コンサルティング業者が行ったもので、方法や内容についてそこまでタッチできてはいません。

【丸山委員】

アンケートに答えようというのは公民館に対する関心度かと思いますが、33%というのは行政の回答率でいうのはまずまずということでしょうか。統計などはありますか。

【森本副館長】

アンケート内容にもよりますが、回答率としては平均くらいで、まずまずではないかと思えます。

【三橋委員長】

他にございますか。アンケートの回答率、1,000人の3割の回答率のうち、半分が公民館をほとんど利用しないという現状を、公民館も生涯学習文化課も私たちがきちんと捉えておく必要があると思えます。こういうなかで公民館の運営について考えていく必要があります。

それと、上総公民館について確認ですが、あり方についてのアンケートの調査目的が「運営の方向性」、「利用しない方の施設に対する認識」とあって、紙で調査する対象は来館者となると、それだけでは利用しない人の認識は調査できないのではと思いましたが、説明の中で、利用しない人はインターネットで声を拾える可能性があるという認識でよろしいですか。

【森本副館長】

おっしゃるとおりです。それと、地域の自治会回覧を通じてアンケートを配布することで公民館を利用していない人にも回答してもらえるとありがたいです。

【三橋委員長】

データだけのやりとりでなく、実際に参加した人の生の声を聞く機会からまとめて運営に反映していくことも大事だと思います。公民館職員なら、電話や窓口でも聞けると思えます。それと、質問としてアンケートの内容のところで、「質問4」について、公民館の説明が入ってしまうと、公民館利用者限定のようになってしまうので、上の説明の部分に記載してはどうでしょうか。説明を入れてしまうと余計な情報になってしまうように感じます。

また、公民館の利用の仕方を知らない人もいると思えます。「質問5」も行事の説明が書いてありますが、公民館を利用しない人にとって、分かりづらいと思えます。「町内自治会等の地域活動」「市主催事業への参加、講座の受講」とありますが、市主催事業は職員や委員はわかるかもしれませんが、「公民館が参加募集している事業」など、分かりやすくした方が具体的な意見が聞けるのではないのでしょうか。

【森本副館長】

貴重なご意見ありがとうございます。

【三橋委員長】

それでは、次に進みたいと思えます。協議事項その2「令和8年実施の『20歳のつどい』の開催－現状と今後の見通し－」について、事務局から説明をお願いします。

【會澤副主査】

*資料P14のとおり説明。

【三橋委員長】

ただいま、事務局から現状の報告がありました。委員のみなさまから ご意見やご質問はございませんか。…ないようでしたら報告事項並びに協議事項については、以上とさせていただきます。